

【公表】 事業所における自己評価総括表

○事業所名	運動療育センター キートス・プラス
○保護者評価実施期間	令和 7 年 3 月 1 日 ~ 令和 7 年 3 月 8 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 41 (回答者数) 23
○従業者評価実施期間	令和 7 年 3 月 5 日 ~ 令和 7 年 3 月 12 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 7 (回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7 年 3 月 20 日

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	一斉運動による運動プログラム実施	一人ひとりの発達段階や運動課題に合わせた一斉活動を行っている。学校やその他の集団活動の際に適応出来る様に運動を通じてルール理解や利用者同士のコミュニケーションを促している。	運動プログラムの質向上のため、スタッフで協議しさらに楽しみながらも機能訓練ができるようなプログラムを新たに企画したり、現行の運動内容のブラッシュアップをする。
2	個別課題の実施	本人や保護者様からの要望に沿って、個別課題を設定している。箸や鉛筆の持ち方、靴紐結びなど日常生活動作、学校体育で実施する種目（縄跳び、鉄棒、マット運動）、ソーシャルスキルトレーニングを個別課題で一人ひとり取り組んでいる。	個別課題に取り組み利用者の成長が見られる。成長に合わせて課題の再設定をこまめに実施する必要性あり。研修を実施し、スタッフの実施方法や手順の共通認識をつくり、高めていく。
3	多職種なスタッフ配置	保育士、理学療法士、児童指導員、柔道整復師、運動インストラクターと異なる資格を持ったスタッフでチームを構成している。子ども達の成長を身体機能、情緒など様々な面から検証し、評価をもとに支援に取り組んでいる。	定期的な外部研修や合同研修を開催し、最新の知識をチーム全員で習得する取り組みも進める。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点	事業所として考えている課題の要因等
1	地域交流の機会が少ない。	今年度は保護者様・利用者様からの情報提供で市民センターで実施しているイベント参加の機会があった。地域の方と触れ合う事業所以外が主催するイベントを事業所からも情報収集していく。	市民センターなどで行われる、地域イベントへの参加機会を作る。地域イベントへの参加以外にも、事業所が主催し地域住民の方が参加できるような取り組みを企画する。
2	保護者同士の交流機会が少ない。	今年度は保護者茶話会の実施機会があった。保護者同士の情報交換の場として非常に有意義であると実感したが、1回しか実施できていない。	保護者のニーズに合わせた交流の機会を企画する。年代・課題・悩みごとなど、保護者の方が日頃感じている困りごとに対しての解決への糸口や不安を吐き出すことができる場をつくる。
3	兄弟児を含めた家族支援の機会をつくる。	保護者を対象とした、勉強会やペアレントトレーニングは実施できていない。また兄弟児の参加を含めたイベントの実施はできていない。	保護者からの相談を受けるだけで留まらず、本人により良い支援がご家庭でも出来る様に、勉強会や親子、兄弟が参加出来るプログラムを実施するなど、家族支援となる機会を創出する。